

7. 教育センター

教育センターは、本学医学・看護学の卒前ならびに卒後教育の支援組織として、教育を推進する。これらの活動を通して、東京慈恵会医科大学の発展に寄与し、国民のための医療者教育の向上に貢献することを目的とする。卒前教育、卒後教育、生涯学習の連続性の中で、大学、附属病院を横断する教育活動について、教育センターは支援する。平成24年度の活動は、大学の基本方針、運営計画に基づき下記事業を実施した。

教育センター長 福島 統

1) 公開講座

(1) 大学主催公開講座

教育センターが公開講座推進委員会を主管して、大学主催（大学および4附属病院が企画・実施）の公開講座を取り纏めた。平成24年度は全機関で29回開催した。本公開講座は一般市民および地域医療者を対象とし、大学の社会貢献と広報活動の充実に関する事業として行っている。公開講座の継続的な推進を図るため、各機関による主体的な運営形態としている。

(2) 地域医療者対象公開講座

教育センターが企画・実施する地域医療者対象の大学主催公開講座を5回開催し、参加者総数は57名であった。対象は本学の学生教育にご協力いただいている学外実習施設の看護師等とした。開催場所はシミュレーション教育施設（7C）で、内容は次の通り。

- ・心音セミナー 3回（4月14日、10月13日、2月9日）
 - 講義① 心臓の基礎知識 福島 統 教授
 - 講義② 心音の基礎知識 岡崎 史子 講師
 - 実習① シミュレータ「イチロー」を使っての心音聴取
- ・呼吸音セミナー 2回（6月9日、3月9日）
 - 講義① 呼吸器系の基礎知識 福島 統 教授
 - 講義② 胸部診察・呼吸系について 岡崎 史子 講師
 - 実習① シミュレータ「ラング」を使っての呼吸音聴取

2) 教育に関する公的補助金にかかる事業

A. 平成24年度文部科学省「参加型臨床実習のための系統的教育の構築」事業

内科学講座（糖尿病・代謝・内分泌内科）宇都宮一典教授が事業推進責任者となり、取組「参加型臨床実習のための系統的教育の構築」を申請し、採択を受けた。事業期間は平成24年度～28年度。本補助事業の主な活動は次の通り。

(1) カリキュラム検討の実施

- ・教学委員会及びカリキュラム委員会では、新カリキュラムの骨子の検討のため、合同委員会を平成25年3月6日に開催し、臨床実習拡充に伴うカリキュラム改革の骨子の説明と質疑応答を行い、学生3名を含めた37名が参加した。
- ・新カリキュラムについて全学的な周知を図るため、「成医会」（平成24年10月12日開催）において、「本学における臨床教育の課題と展望・真のクリニカル・クラークシップを目指して」のパネルディスカッションを実施した。

(2) 学生へのPHS配付

臨床実習教育委員会で検討し、医学科5年生に臨床実習において使用するPHSの配布を平成25年1月に行った。

(3) 英国キングス大学との連携による臨床実習の調査

姉妹校であるとともにグローバル化に対応した臨床実習教育を実践している英国キングス大学に、本学教育センター長福島統教授と臨床実習指導教員岡崎史子講師の2名が平成24年11月7日～11月11日に視察を行った。

(4) 外部評価

キングス大学医学部から地域医療教育部門研究員の武田裕子先生を招聘し、平成24年12月10日～12月14日に本補助事業の外部評価を実施した。

(5) 学生ランチョンセミナー

キングス大学医学部武田裕子先生を講師として、「ハーバード大学内科レジデントからキングス大学就職までの道のり」をテーマに学生セミナーを平成24年12月11日に実施した。学生は3年生～6年生32名が参加した。

B. 平成24年度文部科学省「医学・歯学教育認証制度等の実施」事業

東京医科歯科大学を代表校とし千葉大学、東京大学、新潟大学、東京慈恵会医科大学、東京女子医科大学の6大学が連携して、取組「国際基準に対応した医学教育認証制度の確立」を申請し、採択を受けた。本学の事業責任者は福島統教授が担当した。事業期間は平成24年度～28年度。本補助事業の主な活動は次の通り。

(1) 海外視察

- ・2013年1月27日～2月1日に英国General Medical Council（以下、GMCという。）を福島統教授、中村真理子准教授、京都大学医学教育推進センター錦織宏准教授が正式訪問した。英国GMC設立の背景、現状及び今後の方向性について調査した。
- ・2013年3月5日～3月10日に事業代表校である東京医科歯科大学より本年度計画の追加の連絡があり、中村真理子准教授が米国ECFMG及びFAIMER、UCSF視察に同行した。

(2) 自己点検評価のためのデータベースのフォーマット作成

- ・WFMEグローバルスタンダードに準拠する自己点検評価データベースのフォーマットについて、主に①世界医学教育連盟（WFME）グローバルスタンダード準拠（2003年）医学教育分野別評価基準日本版、②世界医学教育連盟グローバルスタンダードに基づく東京女子医科大学医学部自己点検評価（2011年）③WFME Global Standards The 2012 revision（2012年11月発行）とその日本語改訂版（2013年3月発行）の3つの資料をもとに研究し、作成作業を開始した。
- ・卒前教育の質を検証するための1つの方策として、卒業生へのインタビューが重要であるとWFMEのスタンダードにも謳われていることから、慈恵大学のカリキュラム及び卒業時アウトカムについて卒業生インタビューを実施し、自己点検評価データとした。

C. 平成24年度私立大学教育研究設備整備事業

木村直史教授が事業推進責任者となり、「学生の能力特性に応じた自己主導型学習・評価システムの構築」を申請し、採択を受けた。事業期間は平成24年度の単年度。本学では「自ら求め、自ら学ぶ」学生を育成することを教育方針の根幹に据えており、この理念を具現化するために、今回、「自己主導型学習・評価システム（Self-directed learning and evaluation system, SeDLES）」を学内LANにおけるサーバシステムとして整備した。SeDLESの導入によって、学生の継続的な自律的学習とフィードバックを促進し、学びの質を向上させることを目的としている。

また、本事業の一つとして、3月15日にSeDLESの活用をテーマにSDを開催し、教員3名、大学事務部等職員12名の計15名が参加した。

D. 平成24年度研究設備整備等補助金事業

福島統教授が管理責任者となり、eラーニングシステム「Moodle」を申請し、採択を受けた。事業期間は平成24年度の単年度。Moodleは、医学科では情報リテラシー、症候学演習、テュートリアル、臨床実習入門等、看護学科では在宅看護学実習、在宅看護援助論等に使用される。

E. 経常費補助金「情報の公表」

教育補助金検討委員会が主導し、教育情報に係る項目のデータを、関係部署にデータ提供のご協力を得て、平成24年9月27日に本学ホームページに掲載し、教育情報の公表を行った。これに伴い経常費補助金「情報の公表」の申請を行った。事業期間は平成24年度の単年度。

3) 看護学教育プログラム

看護学教育部門（看護キャリアサポートセンター）の奈良京子部門長を担当として、以下の教育プログラムを実施した。

(1) エデュケーションナース研修

- ・開催趣旨：新人看護師やプリセプターに対して意図的に適切な指導を行うために必要な知識・技術・態度を修得し、教育担当者としての役割を担う看護師の育成をねらいとした。
- ・開催期間：平成24年8月7日（火）～11月23日（金）の内20日間、受講者数：46名

(2) 看護監督者研修

- ・開催趣旨：中間管理者に求められる基本的責務を遂行するために必要な知識・技術・態度を修得し、大学病院・看護部の理念の基、担当部署の看護管理過程が展開できる人材を育成することをねらいとした。
- ・開催期間：平成24年11月29日（木）～平成25年2月23日（土）の内11日間、受講者数：30名

(3) 看護管理者研修

- ・開催趣旨：臨床および教育の看護管理者が一堂に集まり、各々の立場から本学の看護の現状と課題について情報交換を行い、【目指す慈恵の看護】を共有し、連携強化を目指した。
- ・開催期間：平成25年2月2日（土）～2月3日（日）1泊2日、受講者数：20名

4) シミュレーション教育支援

シミュレーション教育施設委員会を主管し、西新橋校、国領校、葛飾医療センターの各々に下部組織の委員会を配置し、教育センターは大学全体として、各機関が連携するシミュレーション教育施設の管理運営を行っている。

シミュレーション教育施設は利用件数が年々増加しており、平成24年度実績では、西新橋校478件（昨年対比43件増）、国領校139件（昨年対比89件増）であった。西新橋校および国領校ともに「卒前教育」での利用が増加した。

5) ICT活用教育支援

(1) eラーニング

卒前・卒後教育教材の作成とeラーニングのサーバ等のシステムを管理し、利用支援を行うとともに、教材作成を支援した。eラーニングの実績は年間31コース254回であった。内訳は次の通り。

- ・医学科学生 13コース、44回（3年次症候学演習、4年次基本的臨床技能実習など）
- ・看護学科学生 7コース、25回（2年次情報科学、3・4年次在宅看護学実習など）
- ・看護専門学校学生 2コース、4回（1年次情報リテラシーなど）
- ・大学院博士課程 6コース、167回（疫学臨床研究、生物統計学など）
- ・卒後教育（研修医、看護師、地域医療者など）9コース、181回（鏡視下手術トレーニングなど）

（6コース167回分は大学院博士課程と共通）

(2) コンピュータ試験の支援

医学教育研究室木村直史教授を責任者として、医学科5年生「総括試験」、医学科2年生「総合試験」、など医学科で計6回のコンピュータ試験実施の支援を行った。

(3) クリッカーを活用した授業等の支援

学生授業の改善を目的として、中村真理子准教授が担当教員となり平成24年5月25日にクリッカーを導入した。コース「医学総論Ⅰ」のユニット「医療総論演習」などの授業において、計3回の利用で、利用者数は計411名であった。

6) 地域医療者教育プログラム

地域医療を行っている医師を対象に「プライマリ・ケアのための臨床研究者育成プログラム」を松島 雅人准教授(臨床疫学研究室・教育センター)を責任者として実施した。

平成22年度生・受講生14名、平成23年度生・受講生14名、平成24年度生・受講生24名を受講生として、講義(eラーニング)を6コース、ワークショップを5回実施した。

7) 市民ボランティア「あけぼの会」の設置と授業参加

平成24年度より、学生、医師、看護師等への本学らしい医療者教育の拡充を目的に、一般市民ボランティア「あけぼの会」を組織し活動を開始した。この組織は、現在、医学科・看護学科の授業(演習、実習)で実践している市民参加型コミュニケーション教育や、医療面接教育への支援を主としており、平成24年度は国領校キャンパスでの医学科・看護学科共習授業「医療総論演習」のグループ討論に参加した。あけぼの会は、原則、職員OBおよび現職員で構成しており、2ヶ月に1回のペースで例会(勉強会)を開催している。なお、平成25年3月31日現在の会員数は、18名である。

(1) 例会(勉強会)

第1回例会 および説明会 平成24年4月14日(土) 10:30~12:00

第2回例会 平成24年6月9日(土) 10:30~12:00

第3回例会 平成24年9月8日(土) 10:30~12:00

第4回例会 平成24年11月10日(土) 10:00~12:00

第5回例会 平成25年1月12日(土) 10:30~12:00

(2) 授業への参加

医療総論演習(国領校キャンパス) 医学科・看護学科1年生 11月13日(火) 13:00~14:30

医療総論演習(国領校キャンパス) 医学科・看護学科1年生 11月27日(火) 13:00~14:30

8) テレビ会議システムの利用支援

4機関合同の教育・研修活動の支援として、テレビ会議運営委員会を主管し、4機関を接続したテレビ会議システムの使用を支援し、年間11回のテレビ会議システムの利用支援を行った。利用内容は4病院合同セーフティーマネジメントシンポジウム、成医会、災害対策会議、情報システム会議等などであった。

9) 大学間連携

大学間連携の一環として、東京医科大学が主催したeラーニングシンポジウム「eラーニングが拓くこれからの医学教育」(平成25年1月19日(土)開催)に教育センター職員2名が参加した。